

滋賀県立総合病院広報誌

FACE

特別号

2023.04

患者さんに寄り添う
安心で誠実な
医療を目指して





病院長として、職員と一緒に患者さんに寄り添い 信頼される医療の発展に尽力したいと思います

自己紹介

このたび、滋賀県立総合病院総長を拝命いたしました、足立壯一です。私は35年以上小児科医として医療に従事しており、うち約20年間は、京都大学医学部附属病院で小児がんの子供たちの診療に責任者として携わってまいりました。未熟児センター(当時)病棟医長、小児科病棟医長、外来医長を務め、多くの小児科医の人材育成も行っていました。

また、2009年からは京都大学医学研究科人間健康科学系専攻の教員として、看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士の育成にも真摯に向き合ってきました。そのうちの5年間は、責任者として、高度医療専門職と世界レベルの研究者の育成を目指した人間健康組織改革にも邁進することで、医療専門職とともに行うチーム医療の重要性を再認識することになりました。私が、常に心掛けてきた医療はワンチームとして患者さんおよびご家族に寄り添うチーム医療です。医療がどんなに進歩しても、病院職員一丸となったチーム医療が大事ですので、職員と共に滋賀県の医療のために頑張っていきたいと思っております。

[総長経歴]

足立 壯一 (あだち そういち)

- 1985年 京都大学医学部医学科卒業
- 1985年 京都大学医学部附属病院研修医
- 1986年 福井県立病院小児科研修医
- 1989年 京都大学大学院医学研究科博士課程入学
- 1993年 京都大学医学部附属病院小児科医員
- 1993年 島田市民病院小児科副医長
- 1995年 京都大学医学部附属病院助手(未熟児センター)
- 1996年 米国スクリプス研究所研究員
- 1998年 米国カリフォルニア大学サンディエゴ校研究員
- 1999年 京都大学医学部附属病院小児科助教
- 2004年 京都大学大学院医学研究科発生発達医学講座(小児科)講師
- 2009年 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻教授
- 2016年 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻長、
京都大学大学院医学研究科副医学研究科長、
京都大学医学部附属病院院長補佐
- 2023年 滋賀県立総合病院総長・病院長

新総長としての想い・抱負

一山前総長が確立された医療安全体制と感染対策を引き継ぎ、以下の3点を推進していきます。

①総合病院としての高度で安全な医療

子どもから大人まで、切れ目のない高度・専門医療を幅広い疾患に対して行います。2021年4月に新設された救急科をさらに充実させ、手術支援ロボットを生かした新たな治療を推進します。徹底した安全管理の仕組みを継続し、安全な医療を県民の皆様に届け、地域医療にも貢献できるように尽力いたします。

②患者さんに寄り添い信頼される医療

心不全やリンパ浮腫に対する看護外来を始めとする患者さんに寄り添う医療を看護部長と二人三脚でさらに充実させます。多くの分野の専門看護師、認定看護師が在籍する看護部の強みを生かし、患者さんに安心して診療を受けていただけるよう、多職種と連携した医療をお届けする環境づくりを推進したいと思います。

③小児保健医療センターとの統合による充実した小児医療

2025年1月に小児保健医療センターと統合し、新総合病院となります。新たな小児科の組織作りにあたって、小児保健医療センターの強みである小児神経疾患患者さんを中心とした質の高い医療を継続しつつ、より幅広い小児疾患に対応できる新しい小児医療体制の確立を目指します。日本全体で少子化対策が重要な課題となっていますが、滋賀県民が安心して育児のできる新たな総合病院小児科を地域とも連携して作っていきます。

上記の3点を達成するためには、職員全員がやりがいを持って、充実した毎日を過ごしていただくことが大事だと思います。総合病院で初期研修やレジデント生活を過ごした若手医師に、大学で研究生活を過ごしたのち、再び総合病院のスタッフとして患者さんに寄り添う高度な医療を提供してもらうことが私の理想です。総長として職員や患者さんの声に耳を傾け、ワンチームとなって頑張りたいと思います。



当院でがんゲノム医療について講演(2022年12月)

専門領域・専門分野について

自己紹介の項にも述べさせていただきましたが、小児血液腫瘍を専門にしてきました。小児科医の特徴は、新生児医療も含めて、あらゆる小児疾患に対応するジェネラリストであることです。私自身、福井県立病院、島田市民病院では低出生体重児の救急搬送も数多く経験し、島田市民病院では新生児室責任者、京都大学医学部附属病院では、未熟児センター(当時)病棟医長も経験しています。また、京都市休日救急診療所では、1小児科医として20年以上、救急医療も担当してまいりました。

小児がん患者さんの診療には、小児循環器、内分泌、神経、免疫・アレルギー専門家との連携が必須です。20年以上、京都大学小児科移植責任医師として、看護師、作業療法士、心理療法士らとのチーム医療を行い、京都大学医学部附属病院の小児がん拠点病院選定に貢献してきました。京都大学医学部附属病院院長補佐として多職種チーム医療検討委員会委員長となり、事例検討会やカンファレンスを積極的に行い、多くの医療専門職の方々と意見交換し、京都大学医学部附属脳卒中循環器病センター設立にもかかわってまいりました。

35年以上にわたる小児科医としての経験を活かし、病院長としても医療現場に十分目配りをして、職員と一緒に患者さんに寄り添う信頼される医療の発展に尽力したいと思います。

都道府県がん診療連携拠点病院として

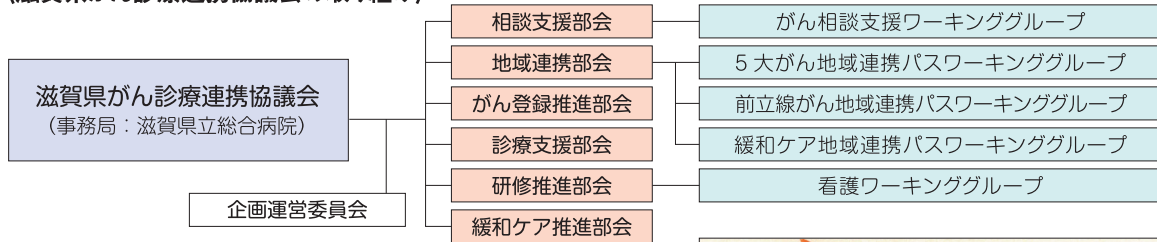
当院は平成21年2月23日から「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定されています。

●がん診療連携拠点病院とは？

患者さんが全国どこでも質の高いがん医療を受けられるようにするための拠点として厚生労働大臣が指定した医療機関のことをいい、「都道府県がん診療連携拠点病院」は、都道府県に概ね1箇所指定されます。

●都道府県がん診療連携拠点病院の役割

- ◆地域におけるがん診療連携体制等がん医療に関する情報交換
- ◆地域拠点病院等に対する情報提供、症例相談、診療支援
- ◆「滋賀県がん診療連携協議会」の設置
〈滋賀県がん診療連携協議会の取り組み〉



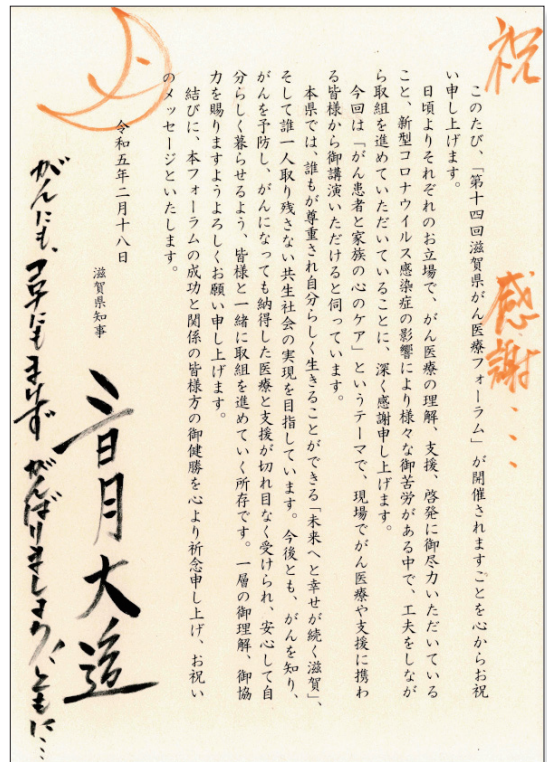
当院は、滋賀県がん診療連携協議会を設置し、6つの部会を設けて、滋賀県のがん医療の向上や医療技術等の格差の是正に取り組んでいます。

●滋賀県がん医療フォーラムの開催

県民の皆様や医療関係者にご関心いただくため、毎年1回フォーラムを開催しています。令和4年度は令和5年2月18日(土)に第14回がん医療フォーラムを開催しました。



第14回滋賀県がん医療フォーラム



第14回滋賀県がん医療フォーラム開催にあたり三日月知事からメッセージをいただきました。

滋賀県立総合病院広報委員会(事務局総務課)

〒524-8524 滋賀県守山市守山五丁目4番30号
電話077-582-5031(代表)



滋賀県立総合病院ホームページ
<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensou/>

※本誌へのご意見や感想等をぜひお寄せください。
FACEしがネット受付サービス

<https://ttzk.graffer.jp/pref-shiga/smart-apply/surveys/8124789265493085857>



〈FACE創刊から1年が経ちました!〉

これまでのバックナンバーは当院ホームページよりご覧いただけます。ぜひ、ご覧ください。



当院ホームページURL

<http://www.pref.shiga.lg.jp/kensou/center/news/326984.html>